



今年の高校入試の分析からこんなことがわかりました！

合格者の国語の平均点は、58.3点

★正答率^(※)が高かったのは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、登場人物の言動の意味を考えて選択肢の中から解答する問題です。特に「訓読の仕方」「漢字の書き」の問題では、基礎的・基本的な言語事項の定着が図られています！



特徴的な問題を見てみましょう！

＜ねらい＞

この問題は、批評文という形態に応じて書いた文章を読み返し、文章全体を整える力をみる問題でした。

＜分析＞

正答率は42.7%でした。課題としては、説得力のある批評文にするという推敲の目的、主張と根拠にあたる各付箋の役割、奈月さんの考えや論理の展開が理解できていないこと、複数の資料から情報を取り出し、適切に引用しながら、条件に沿って書き直していないことなどが考えられます。

＜提案＞

日常の指導では、書いた文章を、論理の展開や表現の仕方について相互評価し、助言し合い、生徒自身が気付いて修正する考えなどの交流の工夫も必要です。自分自身の文章を、よりよい表現になるよう文章全体を整え直す機会の設定も大切です。

批評文を書くことと、批評する活動は両輪であり、自分の判断や価値の理由、根拠を明確に示す指導が重要です。説得力を高めるには、選んだ資料が考えの根拠として適切かどうか、資料と自分の考えとの関係について補足できているか、評価しながら進めるなどの工夫も必要です。

〔標準解答〕

（例）かわいそうにという心情表現を加えてオオクニヌシのやさしい人柄を書いている。また、オオクニヌシを主役とする物語にしようとしている。認めめる結末に変えている。いちばんすぐれた方と世の人々の

〔改題案〕

感想のところは削除して二文で書く。批評文の一文めは、根拠を足す。三文めは、気づいた特徴をもとに「作者はなぜそう書いたのか」と考え、自分の考えを書き直そう。そして、今ある特徴にさらに説明を足して、根拠にしよう。これら三つの内容を付箋に書き出そう。そして、付箋の内容を批評文に付け足したり、置き換えたりしよう。

〔付箋〕

- 作者が、かわいそうにという心情表現を加えている。
- 作者は、オオクニヌシを主役とした。
- 作者が、世の人々の認めめる結末に変えている。

〔奈月さんのメモ〕

観点：気づいた特徴

人物像	やさしい人柄が書いている。作品Aの方が好き。	考えたこと
現代語訳	結末をいちばんすぐれた方とまとめている。	
との違い	・オオクニヌシが活躍する話	

〔奈月さんの批評文〕

作品Aでは、オオクニヌシのやさしい人柄が書いている。私は作品Aの方が好きだ。結末をいちばんすぐれた方とまとめている。オオクニヌシが活躍する話だと思った。

〔条件〕

（条件）

- ・もとの批評文の内容を踏まえて、二文で九十字以内で書くこと。
- ・解答用紙に合わせて、一文めは「作者が」の後から書き出し、二文めは「ものがAという作品だ」に替わって書くこと。
- ・付箋に書かれている内容は、すべて加えること。
- ・付箋と批評文の文頭や文末表現については、前後に合うような形に変えてもよい。

問五 〔改題案〕と、次の条件に従い、奈月さんの批評文を推敲しなさい。



「分かる！・できる！」まで教えよう！（授業改善のkeyword）
各問いの出題内容・ねらい及び正答率は裏面をご覧ください！
詳しい分析は、報告書や県教育研修センターのHPをご覧ください！

（※）正答率については、合格者4,055人の中から、無作為に抽出した630人(15.5%)分のデータです。